

〈準ずる教育〉盲・ろう・肢体不自由養護学校高等部部会

研究主題

「確かな学力」を育むための評価規準に基づく指導の在り方

研究の概要

準ずる教育課程を実施している盲・ろう・養護学校高等部において、生徒一人一人の障害の状態や特性を考慮し、基礎的・基本的な学力の定着と伸長を図るためには、学習状況の評価の工夫・改善を行うことが求められている。

そのためには、小・中学部ですでに実施されている目標に準拠した観点別学習状況の評価の導入を図り、指導と評価の一体化を図る必要がある。

本研究では、盲学校の保健体育の指導における評価規準と評価規準に基づいた評価計画、ろう学校の公民の指導における学習の到達度を適切に評価するための評価規準を具体化した。

I 研究の目的

準ずる教育課程を実施している盲・ろう・養護学校では、障害に基づく種々の困難の改善・克服を図るとともに、学習指導要領に示されている基礎的・基本的な学力をいかに身に付けさせるかが重要な課題である。

小・中学校において、児童・生徒に、基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせるためには、児童・生徒の学習状況の評価の工夫・改善をする必要がある。そのために、学習指導要領に示されている目標に照らして、その実現状況を見る評価を基本に据え、評価の在り方についての研究・開発が進められた。

これを受けて、準ずる教育課程を実施している盲・ろう・養護学校の小学部・中学部においては、平成16年度より、目標に準拠した評価規準を学校ごとに作成したところである。

高等学校については、国立教育政策研究所教育課程研究センターにおいて、平成14年4月に高等学校の評価規準、評価方法等の研究開発が開始され、平成16年6月に「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」がまとめられた。

今後、準ずる教育課程を実施している盲・ろう・養護学校の高等部において、進学または就職に向けて、生徒の障害の状態に応じた指導方法を工夫し、基礎的・基本的な学力の定着と伸長を図っていく必要がある。

そのために、評価の在り方について検討し、評価方法を工夫し、さらに評価を指導に生かして、指導の改善を図ることが重要である。そのために、本研究では、観点別学習の評価を基本とした学習の到達度を適切に評価するための方法を検討し、具体化する。

Ⅱ 研究の方法

1 準ずる教育課程を行っている高等部の評価の現状と課題を明確にする。

- (1) 高等部における評価の現状と課題
- (2) 習熟度別グループ編成の実際の分析及びグループごとの評価の在り方や評価規準の考え方の検討

2 報告書や資料等により、評価についての考え方を明らかにする。

- (1) 評価の基本的な考え方の検討
- (2) 各教科の基本的な評価の観点として、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点による評価方法の検討
- (3) 各教科の目標に準拠した評価を行うための評価規準の必要性の検討
- (4) 障害の状態や特性に応じた評価の在り方の検討
- (5) 評価と評定の在り方の考察

3 具体的な評価規準を作成し、評価を実践する。

年間の評価計画、単元の評価規準、単元の評価規準に基づいた学習指導案を作成し、実際の評価活動と授業研究を通して評価の在り方を検証する。

- (1) 盲学校保健体育「体育」の障害の特性に配慮した年間評価計画及び単元の評価規準と評価の実際
- (2) ろう学校公民「現代社会」の評価の観点及び障害の特性に配慮した学習指導案と評価の実際
- (3) 評価活動を通して、指導と評価の一体化についての検討

Ⅲ 研究の内容（1） ～評価の考え方～

1 高等部における評価の現状と課題

(1) 習熟度別グループでの学習の評価と評定の在り方

準ずる教育課程を実施している盲・ろう・養護学校では、生徒の障害の状態等に応じた指導が大切である。当該学年の教科書を用いる生徒や、指導内容を精選したり、下学部・下学年の指導内容を適用し、特別な配慮の下に手厚くきめ細やかな指導を行う必要がある生徒まで様々な生徒がいる。

評価については、各々の習熟度別グループで評価を行っている場合が多い。しかし、当該学年対応の内容を指導しているグループと下学部・下学年の内容を指導しているグループとでは、それぞれのグループで行われている指導内容の違いから、必然的に目標や到達度も異なってくる。所属しているグループの違いによって評価をどのようにするかなど、評価の客観性について統一した考え方を示していない場合が多い。

高等部の場合は、指導要録への記載は評定のみであるが、評価を総括して要録に評定を記入する際にも、異なる学習グループによる評定の客観性が課題である。

(2) 観点別学習状況の4観点についての周知

高等学校においては、平成12年教育課程審議会答申を受け、観点別学習状況の評価を中心に、評価の在り方の工夫・改善が図られている。しかし、盲・ろう・養護学校の高等部においては、目標に準拠した評価の在り方についての理解がまだ十分ではない。特に、生徒の学習状況を4観点で評価していくことについては、周知が図られていない。

(3) 評価を指導に生かすこと及び評価方法の改善

目標に照らした学習の実現状況をとらえ、その結果を分析して指導をしていく必要がある。教師は毎授業の評価をフィードバックし、生徒が目標を達成することができなかつたり、課題解決ができなかつたりした原因について考え、次の授業で授業内容・方法を修正したり補習を実施していくことが必要である。

指導と評価の計画に基づいて、観点ごとの評価を計画的に行うことが大切である。1回の授業で評価する観点は、評価の計画により設定される。評価したら終わりではなく評価の結果を指導に生かすことが必要である。

(4) 個別指導計画と評価の在り方

各学校では、年間指導計画に基づき一人一人の生徒の個別指導計画が作成されている。準ずる教育課程の個別指導計画は、教科ごとに作成されることが多い。今後、学校で作成される評価規準との関連を踏まえて、基礎的・基本的な学力の定着と伸長を図る個別指導計画を充実させていく必要がある。

2 評価の基本的な考え方

平成11年 高等学校学習指導要領

基本的なねらい

完全学校週5日制の下、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な習得を図り、自ら学び自ら考える力などの〔生きる力〕を育成する。

参考：観点別学習状況の評価及び評定の在り方

H14.2 教育庁指導部 中学校教育指導課
授業を変える子どもを生かす評価・評定Q&A

H15.10 教育庁指導部

目標に準拠した評価の一層の重視

H16.10 教育庁指導部 高等学校教育指導課

実現するために

観点別学習状況の評価を基本とする現行の評価方法を発展させ、目標に準拠した評価を一層重視するとの基本的な考え方に立ち、指導要録における各教科の学習の記録の取扱いについて、観点別学習状況の評価を基本とすることを維持するとともに、小学校及び中学校においても評定を目標に準拠した評価に改めること。

児童生徒一人一人の良さや可能性、進歩の状況などを積極的に評価していく観点から、新設される「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄において、個人内評価を一層充実していくこと。

教育課程審議会答申（平成12年12月）

(1) 「学力」と「評価」

学 力

学習指導要領に示されている「基礎・基本」

自ら学び、自ら考える等の「生きる力」

評 価

目 標 に 準 拠 し た 評 価

個 人 内 評 価

観点別学習状況の評価を基本とした評価方法を発展させ、目標に準拠した評価を一層重視するとともに、児童生徒一人一人の良い点や可能性、進捗の状況等の評価するため、個人内評価を工夫する。

◆観点別学習状況の評価

「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4つの観点による評価。「知識・理解」に偏らず、様々な評価方法を用い、4観点にわたって生徒の学習状況の評価をする。

(2) 「目標に準拠した評価」と「個人内評価」

◆目標に準拠した評価

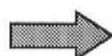
自ら学び、自ら考える等の「生きる力」をはぐくむことを目指し、学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の確実な習得を図ることを重視していることから、学習指導要領に示されている目標の実現の状況を見る評価を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として生徒の学習到達度を適切に評価する。

◆個人内評価

児童生徒の自ら学ぶ意欲や問題解決の能力、個性の伸長などに資するよう、個人評価を工夫する。その際、児童生徒を励ましたり、努力を支援したりする観点に立って、児童生徒の進歩を促したり、努力を要する点を伝えたりすることにも、配慮する必要がある。

(3) 「目標に準拠した評価」の実施と「評価規準」

学習指導要領の教科・科目の目標



学習指導の目標（ねらい）



目標を四つの観点に分けて評価 観点別評価

- * 「学習指導の目標（ねらい）」が実現された状態を具体的に想定したものが評価規準。
- * 基本部分は、学習指導要領とその解説に従うが、各単元（題材）ごとの評価規準など授業の実施を想定したより具体的な部分については、各学校の実状に即して作成する。

◆「評価規準」とは

観点別学習状況の評価が効果的に行われるようにするために、学習指導要領に示す目標の実現の状況を客観的に判断するためのより所を意味するものである。生徒の学習状況を測定する際の物差しであり、「学習指導の目標（ねらい）」を観点別にとらえるための具体的な視点である。

(4) 評価方法と手段

- ・各教科の目標に準拠して3段階で評価する。

十分満足できると判断される	A
おおむね満足できると判断される	B
努力を要すると判断されるもの	C

- ・教科の特性や観点の趣旨に応じて、ペーパーテストや実技テストによる評価、児童・生徒のノートやレポート、作品による評価、教師による観察や面接による評価、児童・生徒の自己評価や相互評価など、評価方法を適切に選択したり、組み合わせたりする。
- ・情意面に関わる観点である「感心・意欲・態度」については、評価の妥当性や客観性を高めるために、多様な評価方法による継続的・総合的な評価の在り方を工夫・改善することが重要である。
- ・評価についての教師の力量を高めることによって、客観的で信頼性の高い評価が行われるようにすることが大切である。

(5) 評価と評定

観点別学習状況については、個々の評価規準に照らして学習の達成状況を評価し、得られた評価結果を基に、単元（題材）全体の達成状況をまとめ、さらに学期や学年といった単位で学習の達成状況をまとめる。

評定については、観点別学習状況の評価と評定を別々に扱うのではなく、観点別学習状況においてあげられた分析的な評価を総括して、5段階評価で評定を行う。

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの	5
十分満足できると判断されるものの	4
おおむね満足できると判断されるものの	3
努力を要すると判断されるもの	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	1

◆「評価基準」とは
各段階の水準や程度の意味を明らかにし、A・B・Cを判断する際の尺度を示すものであり、評価規準に加えて設定する。

(6) 障害の状態や特性等に応じた評価

障害の状態や特性等によっては、各教科の目標に準拠した評価が不可能な場合がある。盲学校での保健体育や理科、美術等、ろう学校での音楽や英語等、肢体不自由養護学校の保健体育等は、生徒の実態によっては指導内容や方法を替え、評価規準を工夫することが必要となる。

また、学習の評価を適切に行うためには、生徒一人一人の実態を総合的に捉え、学習の目標を適切に定めることが必要である。

3 評価方法等の工夫

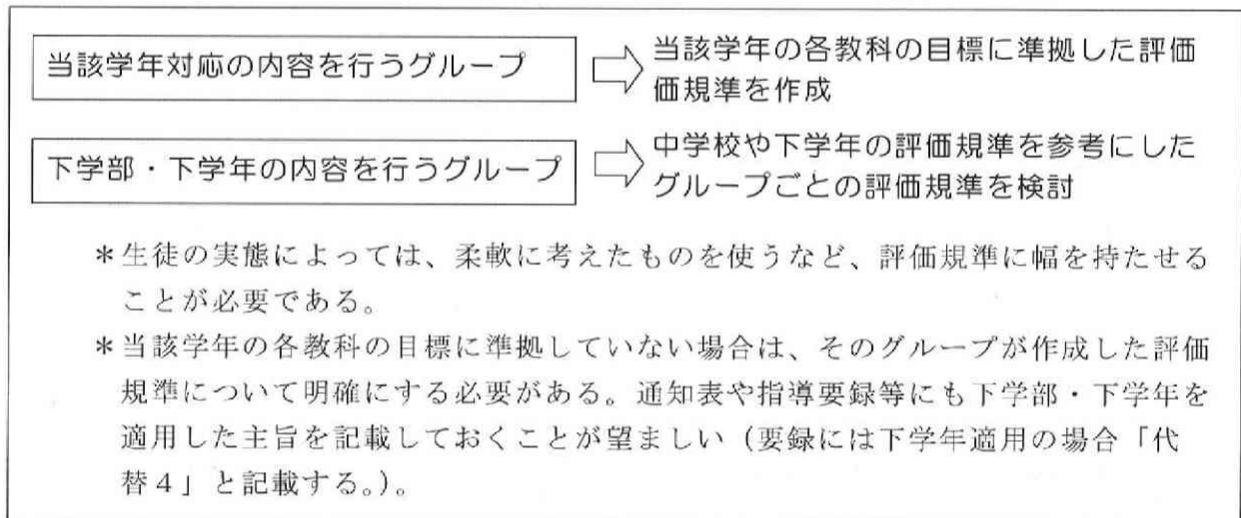
(1) 習熟度別グループ学習の評価

ア グループごとの到達度や目標設定の違い

当該学年対応の内容を行うグループでは、当然ながら、評価規準も当該学年に応じたレベルが要求される。そのグループの中では、5段階評価で2の評定になる生徒がおり、一方では、下学部・下学年の内容を学習するグループでは、その内容に応じて下学部・下学年の評価規準を十分に満たし、評定では5段階評価で5の評定になる生徒がいることもある。各グループが到達度や指導内容を明記していないと、このように、学校の中で2と5についての評定についての客観性が乏しくなる。

習熟度グループ編成を行う場合は、生徒の障害の状態や特性等をよく把握し、グループ内の生徒に合った目標の設定と指導内容の精選とを工夫する必要がある。

イ 習熟度グループにおける評価規準作成上の工夫



(2) 観点別学習状況の各観点のバランスを考慮した評価

学習指導要領では、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力の育成を目指しており、それらが相互に関連して、はじめて意義のあるものととらえられている。このため、評価の観点は基本的に「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」で構成されている。したがって、そのいずれかの観点のみを重視するものではなく、相互にバランスよく関連づけて評価するものである。

観点別学習状況の評価は分析的な評価を行うものであり、評定はその総合的な評価をするものである。したがって、分析的な評価である観点別学習の観点ごとの総括結果を用いて評定へ総括する際、ある観点到大きく偏って重みを付けることは望ましくはない。しかし、障害の特性等や指導のねらい、評価方法等から、重みを付ける場合もある。

例) 盲学校：同じ学習内容でも、弱視の生徒と全盲の生徒では観点により到達度が違う場合がある。

ろう学校：音楽等では、障害の特性から評価できない観点がある場合がある。等

◆「重み付け」とは

評価の観点について、各観点を、どれも同じ重み（重要度）としてとらえるのではなく、「この観点は、ほかの観点よりも重要である」というように、観点によって重み（重要度）の違いを付けること。

- * 基本的に重み付けは、それを行うことで評価の客観性や信頼性が高まるか、生徒の学習指導に役立てるものになるかという視点から行われるべきである。学習指導の流れ全体からどのような重み付けをすればよいのか検討していくことが大切である。
- * 評価しやすい観点のみを重視してしまうことがないように、単元によっては、ある観点を重視し、総括において観点ごとに重み付けを工夫する場合は考えられるが、年間を通して各観点の評価はバランスよくするのが妥当である。

評価をする際に、4 観点の中で重みを付ける場合は、その観点と方法、理由、根拠等を検討し明確にする必要がある。評価の客観性や信頼性を高めるためにも生徒、保護者に対して合理的に説明できることが求められる。

(3) 評価の評定への総括

◆ 評価から評定への総括の例

1 各単元ごとの観点別評価 → 学年末評定

各単元・各観点ごとの評価（A、B、C）を累積して、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、C）を出し、学年末の評定に総括する。

2 各単元ごとの観点別評価 → 各学期ごとの観点別 → 学年末評定

各学期の観点別学習状況の評価（A、B、C）を出し、学年末の評定に総括する。

3 各単元ごとの観点別評価→各学期ごとの観点別評価→各学期の評定→学年末評定

各学期の評定を、学年末の評定に総括する。

◆ 観点別学習の評価から評定への具体的な総括の考え方の例

各観点とも同じ評価がそろう場合、例えば、

●「AAAA」 → 4または5

●「BBBB」 → 3

●「CCCC」 → 2または1

とするのが適当である。

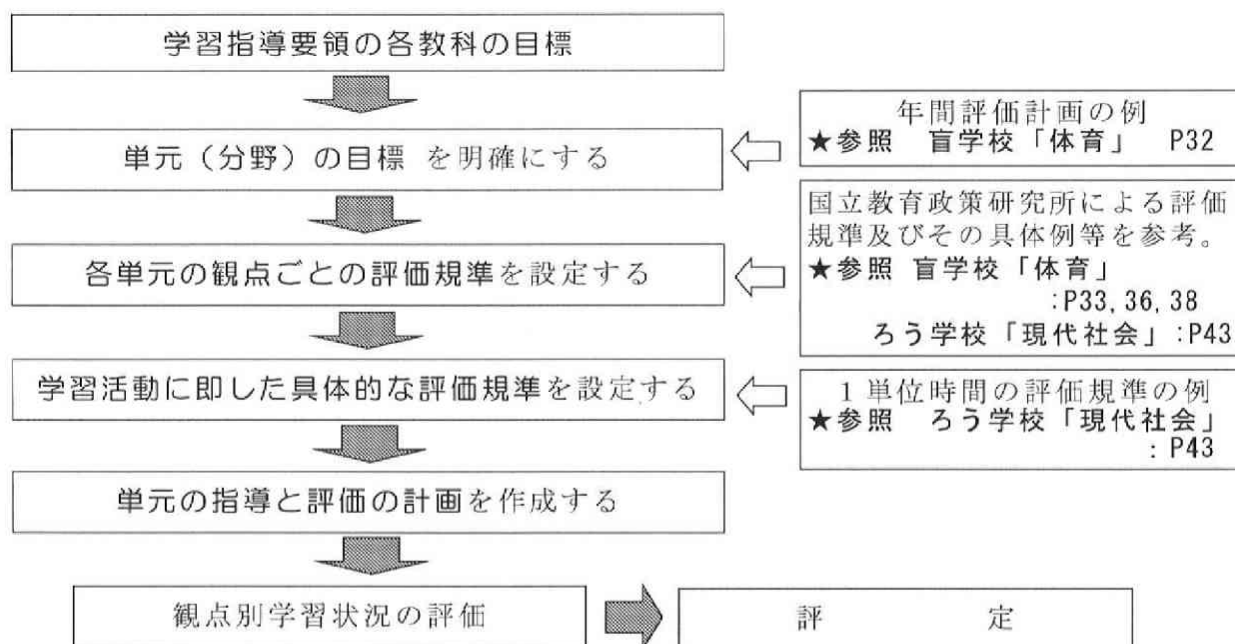
それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組み合わせから適切に評定する。

* 出現率の高いものを重視しながら、学年の目標及び観点の趣旨に照らし合わせて実現状況を把握し、評定するなどの工夫が必要となってくる。

* 観点別学習の評価結果はA、B、Cなどで表されるが、そこで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定することは適当でない場合もある。

* 評価に対する客観性や信頼性を高めるために、各学校では観点別学習の評価ごとの総括および評定の考え方や方法について共通化を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。

4 「評価の計画」の作成手順



IV 研究の内容(2) ～障害の特性に応じた評価規準の例～

評価規準の具体例として盲学校高等部1年生保健体育「体育」の年間の評価計画、単元の評価計画の例、観点別評価補助資料及びろう学校高等部3年生公民「現代社会」の単元の評価規準に従った1単位時間の指導事例を取り上げた。

1 事例1－盲学校高等部1年生「保健体育」

(1) 授業内での評価方法

授業を進めながら観点別の評価を行う場合、一度に多くの観点について評価を行うことは、指導することより、評価することに重点が置かれてしまうことが考えられるので、評価項目は、1単位時間の中では、2、3項目が適当であると考えた。

(2) 体育の各観点別評価に示す規準の内容

- ア 運動への関心・意欲・態度 (a 楽しさの体験・b 社会的な態度・c 安全な態度)
- イ 運動についての思考・判断 (a 分析力-見つけたり、違いがわかること等・
b 計画力-目標の設定、課題の選択、活動の決定、練習計画や作戦の立案等・
c 評価力)
- ウ 運動の技能 (a 技能の向上-個人の技能、集団の技能・b 審判の技能)
- エ 運動についての知識・理解 (a 運動、安全-運動の特性やルール、運動の効果)

*盲学校においては、全盲の生徒、弱視の生徒で指導上の配慮事項に異なる点が考えられ、特にウ運動の技能に関わる評価の規準については、全盲の生徒、弱視生それぞれに対応する必要があると考えられる。しかし、今回の内容では、ほぼ同様の規準を設定している。

(3) 年間評価計画(体育分野)の例

科目名: 体育 単位数: 3 単位 (火曜・5・6校時、金曜・3校時)
 担当者: ○○○○・○○○○・○○○○・○○○○

指導目標: 運動の楽しさや喜びを味わうとともに、各種の運動技能や運動の合理的な行い方を身につけ、健康保持、体力の向上を図る。
 豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身に付けるとともに、社会のルールやマナーを守れる能力や態度を養う。

前期	領域	主な内容	指導上の留意点等	主な評価の観点	
4月	16日金	オリエンテーション	施設設備、年間計画、授業の進め方の説明・体操	体育館施設の確認・各個人の障害の把握する	身体の様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう
	20日火	体ほぐし・体カテスト	ストレッチ体操・腕力・長座体前屈・上体起こし	リラクゼーション及び運動量の確保に配慮する	
	23日金	体ほぐし・体カテスト	ストレッチ体操・立ち幅跳び・バーピー	学習ノートで各自の体調を把握させる	学習ノートをきちんと記録している
	27日火	体ほぐし・動きづくり・体カテスト	ストレッチ体操・シャトルラン・ハンドボール練習、動きづくり	自己の体力を知り課題を理解させる	自己の体力を把握し分析できる
5月	7日金	体ほぐし・体カテスト	ストレッチ体操・ハンドボール投げ・グラウンド施設の説明	グラウンド施設の確認、把握させる	健康・安全に留意して運動しようとしている
	11日火	陸上競技	短距離走・投てき・跳躍基本動作	学習ノートで各自の体調を把握させる	全力を出して競走したり、記録を向上させたりする楽しさや喜びを味わおうとする
	14日金	陸上競技	短距離走・投てき(40m、H・B・SB投げ、スタプロの使用法)	自己の課題を考えた目標記録を設定する	健康・安全に留意して運動しようとしている
	18日火	修学旅行・陸上競技	跳躍・短距離走・投てき(40m走、スタプロ練習)	施設、器具等の安全に配慮して行う	学習ノートをきちんと記録している
	21日金	修学旅行・陸上競技	跳躍・短距離走(100or400m、幅跳び、立ち幅跳び)	100、400は選択で行う	
	25日火	陸上競技	跳躍・短距離走・投てき(100m、幅跳び、FB・SB投げ)	記録を伸ばすための工夫をするよう導く	自己の能力と適性を知り、運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫している
	28日金	陸上競技	記録会(60m、幅跳び、FB・SB投げ)	目標記録との比較と課題を再認識させる	
6月	1日火	陸上競技	記録会(100m、幅跳び、FB、SB投げ)・実技テスト	※雨天の場合は体育館で動きづくり	
	4日金	陸上競技	各自選択種目の記録計測	障スポに向けてのコンディショニング	適切な技能を身に付けている
	8日火	水泳	オリエンテーション・施設設備の説明・水慣れ	水泳の特性や学習の進め方を理解させる	水泳の特性に関心を持ち、様々な運動体験を通して水泳の楽しさや喜びを味わおうとする
	11日金	動きづくり(器械運動)	マット、鉄棒、クライミングロープ等(以降水泳中止の裏返扱い)	自己の運動能力を認識し課題を見つける	自己の能力と適性を知り、適切な課題、目標を設定している
	15日火	中間試験 水泳	水慣れ(プレッシング、浮き身)・水中リラクゼーション	水泳の運動特性を知らせる	
	18日金	中間試験 水泳	基本泳法、クロール(プル・リカバリー・エルボアップ)	自己の課題を考えた目標を設定させる	
	22日火	水泳	クロール(プル・プレッシング)	泳法の基本を習得させる	自己の体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている
	25日金	水泳	クロール(コンビネーション)・平泳ぎ(キック)	※入水不可の場合は動きづくり(器械運動)	
	29日火	水泳	クロール(25m記録計測)・平泳ぎ(ストローク・プレス)	自己の泳力を知り、目標をもって計画的に練習に取り組み	健康・安全に留意して運動しようとしている
	7月	2日金	水泳	基本泳法、クロール、平泳ぎ・課題別練習	基本的な泳法を習得する
6日火		水泳	実技テスト(クロール)	目標記録との比較と課題を再認識させる	
9日金		水泳	クロール、平泳ぎ・記録の計測・課題別練習	自己の安全を自分で守る力を身につける	自己の安全確保の技能を身に付けている
13日火		水泳	水難事故に遭遇した時の対応・エレメンタリーバック	背浮き、エレメンタリーバックストローク習得	水難事故の知識を理解している
16日金		移動教室			
3日金		水泳	背泳ぎ、バタフライなど新しい泳法に挑戦する	無理のないように配慮する	互いに協力して計画的に運動している
9月	7日火	水泳	時間泳(クロール、平泳ぎ)・課題別練習	自己の能力に応じ時間や距離に挑戦させる	課題解決の為によく努力している
	10日金	水泳	距離泳・課題別練習	各自の体調に気を配る	基本泳法の技能を身に付けている
	14日火	水泳	実技テスト(クロール・平泳ぎ)・個人やチームでの競争	今期成果をまとめ次年度の課題を持たせる	記録向上に合わせて効果的な練習の仕方、競泳の仕方を工夫している
	17日金	水泳	時間や距離に挑戦・個人やチームでの競争・まとめ	※入水不可の場合はグラウンドソフトボールの導入(予定を繰り上げて実施する)	
	24日金	水泳orグラウンドソフト	水泳まとめ	中止時:グラウンドソフトボール	
	29日火	期末試験期間			
	10月	5日火	期末試験期間		
	8日金	終業式			
後期	12日火	始業式			
	15日金	グラウンドソフトボール	グラウンドソフトボールについて説明・基礎技能(ボール慣れ)	手指の怪我には注意を促し、安全に確心の注意を払う	集団スポーツの特性を理解し、協力して個人、集団の技能を高め、ゲームを楽しむことができる
	19日火	グラウンドソフトボール	基礎技能(送球・捕球・打撃・走塁) 集団技能の理解	バットを振る際には周囲に注意を払う	自己の能力と適性を知り、課題、目標を設定している
	22日金	(全国弁論大会)		試合に全員参加できようルールを工夫する	作戦を立てて競い合う球技の楽しさを味わう
	26日火	グラウンドソフトボール	基礎技能(送球・捕球・打撃・走塁) 集団技能(バント)	チーム内での役割分担をし積極的な参加を促す	健康・安全に留意して運動しようとしている
	29日金	グラウンドソフトボール	基礎技能・集団技能・簡易試合・ルールの理解	集団スポーツへの動機付け授業観察者のス	
	11月	2日火	文化祭準備期間		
5日金	(文化祭前日準備)				
12月	9日火	陸上競技(持久走)	長距離走・ベースランニング1000m、グラウンドソフト実技テスト・試合	自己の体力を知り課題を理解させる	自己の能力と適性を知り、適切な課題、目標を設定している
	12日金	陸上競技(持久走)	長距離走・ベースランニング女子1500m、男子2100m	自己のペースを考え、走法を工夫させる	
	16日火	陸上競技(持久走)	長距離走・ベースランニング3000m グラウンドソフト試合	1000mのペースを計算する	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫している
	19日金	陸上競技(持久走)	長距離走・男子4200m、女子3000m	自己の課題を考え目標記録を設定する	
	26日金	陸上競技(持久走)	長距離走・男子5000m、女子4000m	持久走大会の申告タイムを決定する	
	30日火	陸上競技(持久走)	長距離走・男子6000m、女子4500m	目標記録に挑戦する	健康・安全に留意して運動しようとしている
	3日金	(持久走大会)			
	7日火	フロアーバレーボール	フロアーバレーボールについて説明・基礎技能、ボール慣れ	特に手指の怪我には注意を促し、安全には細心の注意を払う	自己やグループの能力と種目の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫している
1月	10日金	フロアーバレーボール	基礎技能(パス・レシーブ)	前衛・後衛のポジションを体験する	健康・安全に留意して運動しようとしている
	14日火	フロアーバレーボール	基礎技能(パス・レシーブ・スパイク)・前衛、後衛練習	試合に全員参加できようルールを工夫する	基本技能を身に付けている
	17日金	フロアーバレーボール	基礎技能(サーブ)・簡易試合・ルールの理解	チーム内での役割分担をし積極的な参加を促す	ルールを理解している
	21日火	フロアーバレーボール	実技テスト・試合・ルールの理解		
	24日金	フロアーバレーボール	試合・ルールの理解		
	11日火	トランポリン&卓球	授業の進め方の説明・基礎技能	トランポリン使用の際の安全確保について理解をさせる	自己の能力と適性を知り、適切な課題、目標を設定している
	14日金	卓球	基礎技能(サーブ・レシーブ)	トランポリンは目標をもって計画的に練習をする	自己の体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている
2月	18日火	トランポリン&卓球	基礎技能 卓:サーブ・レシーブ トランポリン:チェック・ストレート	トランポリンは目標をもって計画的に練習をする	自己の能力と適性を知り、適切な課題、目標を設定している
	21日金	卓球	基礎技能(サーブ・レシーブ)・ラリー	自己の運動能力を認識し課題を見つける	身体の様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう
	25日火	トランポリン&動きづくり	トランポリン(開脚、タック、捻り)・動きづくり	ミニトランポリン、マット等を利用し動きづくり	
	28日金	卓球	基礎技能(サーブ・レシーブ)・ラリー	ルール理解	基本技能を身に付けている
	1日火	トランポリン&動きづくり	トランポリン(開脚、シート、ニー、ビルエット)・動きづくり	ミニトランポリン、クライミングロープ等を利用	健康・安全に留意して運動しようとしている
	4日金	卓球	基礎技能(サーブ・レシーブ)・ラリー・簡易試合	ルールを覚える	
	8日火	トランポリン&動きづくり	トランポリン(連続技:タック1/2捻り・シートニー)・動きづくり	トランポリンでは連続技に挑戦する	健康・安全に留意して運動しようとしている
	15日火	トランポリン&動きづくり	トランポリン(フロント・バック・連続技)・動きづくり	ミニトランポリン、肋木、うんてい等を利用	試合の運営などを理解し知識を身に付けている
	18日金	卓球	卓球(試合・ルールの理解)		
	22日火	トランポリン&動きづくり	トランポリン(開脚、開脚、尻打ち)・動きづくり	卓球ではルールを工夫し全員が試合を楽しめるよう配慮する	
3月	25日金	トランポリン&卓球	卓球(試合) トランポリン(連続技)	トランポリンは技の組み合わせを工夫し発表演技を構成するよう配慮する	
	1日火	トランポリン&卓球	実技テスト・試合・発表		
	4日金	期末試験			
	8日火	期末試験			
○日×	まとめ	1年間の学習で何が学べたか、体育の授業が自分にとってどのような効果をもたらしたかを総括(次年度の抱負、授業への要望等も含む)			

2年時 : ゴールボール、器械運動、格技(柔道)、陸上、水泳を実施する予定です。

3年時 : ゴルフ、フロアーバレー、縄跳び、格技(柔道)、陸上、水泳その他を実施する予定です。

(4) 単元の観点別評価規準と評価計画の例

【陸上競技】

1 単元名 陸上競技①：短距離走、跳躍及び投てき（計 12 時間 5月11日～6月4日）

- 2 学習目標
- ・正しい走法や正しい跳躍、投てき動作の技能を身に付け、陸上競技を楽しむ。
 - ・協力して安全に練習や記録会を行う。
 - ・自己の能力に適した課題をもち、工夫して練習する。

3 学習内容 ①短距離走（100m走）：スタート動作

（クラウチングスタート：足の位置、歩幅のめやす）

加速疾走・中間疾走法（ピッチ×ストライド）、フィニッシュ動作（トルソー）

②跳躍（走り幅跳び、立ち幅跳び）：助走、踏み切り、空中動作、着地動作

③投てき（ハンドボール投げ・ソフトボール投げ）：

投球動作（腕の振り、肘の高さ、リリースポイントフォロースルー）、助走（足の運び、重心移動）

観点	評価規準	評価基準 B（おおむね満足）
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・全力を出して競走したり、記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・互いに協力し、励まし合いながら進んで練習や競技を行おうとする。 ●体の調子や練習場などの安全やランドマークを確かめるなど、健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の能力に適した課題を決め、毎時間意欲をもって練習に取り組んでいる。〔発言・観察・学習ノート〕 ○繰り返し楽しそうに練習している。〔観察〕 ○いつも声をかけ、仲間と協力し練習している。〔観察〕 ○目標記録を伸ばそうと更に努力しようとしている。〔観察〕 ○学習ノートにその日の様子を記入している。〔学習ノート〕 ●練習場、施設を把握して安全に練習している。〔観察〕
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に適した目標記録や課題を設定している。 ・課題解決のために効果的な練習の仕方を選んだり記録向上に合わせて、効果的な練習の仕方や競技の仕方を見つけたりしている。 ●正しい動作、技能をことばで説明できるとともに、身体で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な目標記録を決め、いろいろな練習方法を工夫し練習している。〔観察・質問紙・学習ノート〕 ○自己の課題を明らかにして、適切な目標を設定している。また目標の修正ができる。〔学習ノート〕 ○自分の課題に合った練習方法を選んで練習している。〔観察・学習ノート〕 ●正しい運動動作や技能につながるよう助言を聞きながら動作を工夫している。〔観察・学習ノート〕
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・種目の特性に応じた技能を練習や競技で身に付けている。 ・自分の能力に適した技能のポイントをつかみ、技能を高め競技したり記録を高めたりすることができる。 ●正しく運動動作と運動イメージを一致させて競技できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラウチングスタートができる。〔実技テスト〕 ○正しい動作で加速疾走・中間疾走ができる。〔記録会・観察〕 （●伴走者と動作を合わせることができる）〔記録会・観察〕 ○合理的な投球動作が出来る。〔記録会・観察〕 ○自己の設定した目標、課題を達成または記録を更新している。〔観察・記録確認〕
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ●種目の特性や学習の進め方及び自分の能力に適した課題の選び方及びそれに合わせた練習や競技の仕方を理解している。 ・種目のルール、競技や審判の方法を知っている。 ・陸上用語を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習した知識をもとに自己の課題に適した練習を選択している。〔観察〕 ○計測の方法や順位の決め方を理解している。〔質問紙〕 ○短距離、投てきのルール、用語を理解している。〔質問紙〕 ○規則に従って記録会の運営に参加している。〔観察〕

※観点別評価についてはABCの3段階で評価をする。 A：満足 B：おおむね満足 C：努力を要する

※●は特に視覚障害に対応した内容

◆ 単元の評価計画（陸上競技）

	学習項目・内容	評価規準	評価の方法	意欲	誇稱	技能	態度
5月11日火	・種目、ルールの説明 ・授業の進め方確認 ・正しい走法、投てきの動作の理解 ・走の基本練習 ・投の基本練習 40m走、ソフトボール投げ	・種目の特性や学習の進め方及び種目に合わせた練習の仕方を理解し、知識を身に付けている。 ・互いに協力し、励まし合いながら進んで練習を行っている。 ・繰り返し楽しそうに練習している。 ・自分の能力に適した目標記録や課題を設定している。 ●練習場を把握し安全やランドマークを確認できる。 ・体の調子や健康・安全に留意している。	観察 学習ノート 観察 学習ノート 学習ノート 観察 学習ノート		○		○
5月14日金	・投てきの基本練習 ・フォームづくり ・的当て ・ソフトボール投げ記録 ・計測	・投てきの記録を向上の為に繰り返し練習し全力を出している。 ・投てきの運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・互いに協力し、励まし合い進んで練習を行っている。 ・課題解決のために効果的な練習を選んだり練習を工夫している。 ●助言を聞きながら正しい動作を工夫している。 ●体の調子や練習場などの安全やランドマークを確かめるなど、健康・安全に留意して練習をしている。	観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察 学習ノート	○		○	
5月18日火	・走、跳躍の基本練習 ・クラウチングスタート ・スターティングブロックの使用 ・踏切、助走のリズム 100m、走幅跳び記録・計測	・全力を出して記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・記録向上に合わせて効果的な練習の仕方を見つけたりしている。 ●助言を聞きながら正しい動作を工夫している。 ・スタート、助走の技能を練習で身に付けている。 ●自分に合った踏切の位置、歩幅、助走距離を把握している。 （●短距離走で伴走者と動作を合わせるなど技能を高めている） ●体の調子や練習場などの安全を確かめるなど、健康・安全に留意して練習や競技をしている。	観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察 学習ノート	○		○	
5月21日金	・投てき、跳躍の基本練習 ソフトボール投げ、幅跳び記録・計測	・投てき、跳躍種目のルール、競技や審判の方法を理解している。 ・自分の能力に適した投てき、跳躍技能のポイントをつかみ、練習を工夫している。 ・投てき、助走、踏切動作の技能を練習で身に付けている。 ●自分に合った踏切の位置、歩幅、助走距離を把握している。 ●体の調子や練習場などの安全やランドマークを確かめるなど、健康・安全に留意して練習や競技をしている。	観察 観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察 学習ノート		○		○
5月25日火	・スタート、中間の走法 ・幅跳び助走、踏切 ・100m、400m 走幅跳び記録・計測	・全力を出して記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・記録向上の為に工夫をしながら競技を行おうとする。 ●助言を聞きながら正しい動作を工夫している。 ・スタート、中間走、助走、踏切の技能を身に付けている。 ●体の調子や練習場などの安全やランドマークを確かめるなど、健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。	観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察 観察 学習ノート	○		○	
5月28日金	・投てき、跳躍基本練習 ・中間疾走 ・クラウチングスタート、ルールの確認・復習 ・記録会1 ソフトボール投げ、走幅跳び記録計測	・全力を出して記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・互いに協力し、進んで練習や競技を行おうとする。 ・記録更新のために練習の仕方や競技の仕方を工夫している。また、自己の目標記録を達成、更新している。 ・種目の特性に応じた技能を身に付けている。 ●体の調子や練習場などの安全やランドマークを確かめるなど、健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。	観察 学習ノート 観察 観察 学習ノート 記録 観察 学習ノート	○		○	○

6月1日 火	・陸上競技ルールの確認、知識の整理	・全力を出して競走したり、記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。	観察 学習ノート	○		
	・クラウチングスタート実技テスト	・課題解決、記録向上のため練習の仕方や競技の仕方を工夫している。また、自己の目標記録を達成、更新している。	観察、記録 学習ノート		○	○
5.6 土	・知識確認テスト	・種目の特性に応じた技能を身に付けている。	観察 技能テスト			○
	・記録会2 100m、ソフトボール投げ、走幅跳び記録・計測	・クラウチングスタートの基礎技能を身に付けている。 ・陸上競技のルール、用語を理解している。 ●体の調子や練習場などの安全やランドマークを確かめるなど、健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。	確認テスト 観察 学習ノート	○		○
6月4日 金	・記録会3 100m、60m、ソフトボール投げ	・種目のルール、競技や審判の方法を知っている。 ・自分の能力に適した技能のポイントをつかみ、技能を高め競技したり記録を高めたりすることができる。	観察 記録、観察		○	
	・学習のまとめ・感想	・種目の特性に応じた技能を練習や競技で身に付けている。 ●体の調子や練習場などの安全やランドマークを確かめるなど、健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。	観察 観察 学習ノート	○		○

◆ 観点【運動の技能】についての実技テスト及び実技観察の具体的評価項目及び評価規準（弱視生徒の例）

実技評価の観点項目		実技テスト及び実技観察での具体的な規準	
短 距 離 走	クラウチングスタート	位置について 用意 ドン	目線を第二步目に、体重は両腕と前足にかける。 腰は頭より高い位置、目線を第2歩目にむける。 スターティングブロック使用の場合、前足膝90度、後足膝120度程度 すばやく前方へ腕を振り上げる、腰の位置を水平移動させる。
	加速疾走法スタート動作 中間疾走法		上体を深く前傾し小さく第一歩、前傾を保つ、歩幅を広げ上体を起しながら加速する。（第一歩目1～1.5足長 第二歩目4～4.5 第三歩目5～5.5） スピード維持ができています。（●ピッチ×ストライドが理解できている）
跳 躍	走り幅跳び	踏み切り 助走 空中動作 着地動作	●4歩助走（タン、タン、タ、ターンのリズム）で踏み切り足を合わせる ことができる。強く踏み切り、上方へ跳びあがる。 8歩助走、12歩助走で加速をするとともに踏切を合わせる。 上方に伸びあがるように空中でのバランスを保つ。 両足を揃え両腕を前、両膝をあげて着地点を有利にする。
	立ち3段跳び（跳び方）		●ホップ・ステップジャンプ [右・右・左][左・左・右]がリズムよくできる。
投 て き	ソフトボール投げ	正しい 投球動作 助走	肘が肩よりも高く、腕の振りが大きい（テイクバック・フォロースルー・リリースポイントを理解している）。投球動作ができています。 足の運び、重心の移動をスムーズに行う。フェールをしない。

【運動の技能】の評価基準

技能の観点項目について各5段階で評価し、おおむね満足できるとみられる技能を習得している場合は「3」の評価とする。

観点別評価記録補助簿		陸上①				月		日	
氏名	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	備考				
1 ○○	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5					
2 ○○	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5					
3 ○○	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5					
4	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5					

【水 泳】

1 単 元 名 基礎泳法 クロール・平泳ぎ・（背泳ぎ）（計 16 時間 6月8日～9月17日）

2 学習目標 ・水泳の特性に応じた運動動作を身に付けるとともに基本的な泳法を習得し、水泳を楽しむ。
 ・自己の能力に適した課題をもち、工夫して計画的に練習する。
 ・協力して安全に練習を行うとともに、水難事故に関する知識及び事故防止の技能を習得する。

3 学習内容 ・基礎技能（背浮き・キック・ブレッシング等）
 ・クロール、平泳ぎーストローク（プル、リカバリー）、コンビネーション等
 ・水難事故に関する知識及び技能（背浮き・エレメンタリーバックstroーク等）

観点	評 価 規 準	評 価 基 準 B（おおむね満足）
関心 ・ 意欲 ・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> 水泳の特性に関心をもち、様々な運動体験、経験をし、楽しさや喜びを味わえるよう互いに協力して進んで練習に取り組もうとする。 ●水泳の事故防止に関する心得を守るとともに、体の調子やプール施設などの安全を確かめるなど、健康・安全に留意して練習や競泳をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の能力に適した課題にそって、毎時間意欲をもって練習に取り組んでいる。〔発言・観察〕 ○繰り返し楽しそうに練習している。〔観察〕 ○いつも声をかけ、仲間と協力して練習している。〔観察〕 ○目標記録を伸ばそうと更に努力している。〔観察〕 ○学習カードにその日の様子を記入している。〔学習ノート〕 ●練習場、施設を把握して安全に練習している。〔観察〕
思考 ・ 判断	<ul style="list-style-type: none"> 自分の能力に適した目標記録や課題を設定している。 課題解決のために効果的な練習の仕方を選んだり、記録向上に合わせて効果的な練習の仕方や競泳の仕方を工夫している。 ●水泳の特性に応じた動作、技能を言葉で理解し、正しく表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の課題を明らかにし適切な目標を設定している。〔学習ノート〕 ○課題解決に必要な練習や手がかり（ロープや音楽等）を適切に選び工夫しながら練習している。〔観察・質問紙〕 ○課題の達成状況をとらえ、練習仕方を見直したり、新たな課題を選んだりしている。〔観察・学習ノート〕 ●正しい運動動作や技能につながるよう、助言を聞きながら動作を工夫している。〔観察・学習ノート〕
運動 の 技能	<ul style="list-style-type: none"> 水泳の特性に応じた技能を身に付けている。 自分の能力に適した技能のポイントをつかみ、技能を高め、速く泳いだり、続けて長く泳いだり、競泳をしたりすることができる。 ●水泳の特性に応じた正しい運動動作と自己の運動イメージを一致させ競泳できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の能力に応じた泳法で速く泳いだり、続けて泳ぐことができる。〔実技テスト・記録会〕 ○背浮きを続けて長く行うことができる。〔実技テスト〕 ○自己の設定した目標を達成または記録を更新している。〔記録確認〕 ○クロールが正しいフォームでできる。〔実技テスト・記録会〕 ●真っ直ぐ泳ぐことができる。〔実技テスト・記録会〕
知識 ・ 理解	<ul style="list-style-type: none"> 水泳の特性や学習の進め方及び自分の能力に適した課題の選び方、またそれに合わせた練習や競泳の仕方を理解している。 ●水泳の特性に応じた正しい動作、技能を言葉で理解している。 水泳の事故防止について理解をするとともに水難事故についても知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水泳の運動効果を理解している。〔観察・質問紙・学習ノート〕 ○水泳の楽しみ方は個人の興味関心、経験、年齢などで様々であることを理解している。〔質問紙・学習ノート〕 ●学習した知識を基に自己の課題に適した練習を選択している。〔観察〕 ○競泳のルール、用語を理解している。〔質問紙〕 ○事故防止の心得やルールを理解している。〔質問紙・学習ノート〕 ○水難事故についての知識を理解している。〔質問紙・学習ノート〕

※観点別評価についてはABCの3段階で評価をする A：満足 B：おおむね満足 C：努力を要する

※●は特に盲学校に対応した内容

◆ 単元の評価計画（水泳）

	学習項目・内容	評価規準	評価の方法	関心	理解	技能	知識
6月8日火	<ul style="list-style-type: none"> 水泳授業の進め方 ボディの理解 施設、設備の説明 水慣れ 	<ul style="list-style-type: none"> 水泳の学習の進め方、練習の仕方を理解している。 施設、設備を把握するとともに諸注意やランドマーク・目印等について理解している。 互いに協力し、励まし合いながら進んで練習を行っている。 学習カードに体の調子や授業の様子を記入している。 水に慣れる（歩行・プレッシング・浮き身ができる）。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 学習ノート 観察 学習ノート 	○			○
6月15日火	<ul style="list-style-type: none"> 水泳の運動特性を知り泳法の基礎技能を習得する（背浮き、キック、プレッシング） クロール、平泳ぎを習得する（ストローク、コンビネーション、ターン） 自分の興味・関心、体力、生活などを考慮して無理なく安全に楽しめるように自分にあった水泳の練習法を考える 記録の計測 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と声をかけ合い協力し、繰り返し楽しくに練習している。 自己の課題にそって、意欲をもって練習に取り組んでいる。 学習カードに体の調子や授業の様子を記入している。 体の調子や練習場などの安全を確かめるなど、健康・安全に留意して練習をしている。 自己の課題を明らかにし、適切な目標を設定している。 課題解決に必要な練習を適切に選び工夫しながら練習している。 課題の達成状況をとらえ、練習の仕方を見直したり新たな課題を選んだりしている。 助言を聞きながら正しい動作を工夫している。 真っ直ぐ泳ぐことができる。 背浮きを続けて長く行うことができる等基本的な動作ができる。 クロールが正しいフォームでできる。 クロール、平泳ぎの記録を向上させるように全力を出している。 水泳の運動効果を確かめ理解している。 水泳の楽しみ方は個人の興味・関心、経験、年齢などによって様々であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察 実技テスト 観察 学習ノート 	○			○
7月13日火	<ul style="list-style-type: none"> 水難事故について現状を知る 事故に遭遇した際の対応について学ぶ 溺れた人の救助法について学ぶ 着衣泳を体験する 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と声をかけ合い、楽しくに練習している。 学習カードに体の調子や授業の様子を記入している。 体の調子や練習場などの安全を確かめるなど、健康・安全に留意して練習をしている。 水難事故に遭遇した際、身近にあるものを浮きとして使うなど自己の安全を自分で守る方法を身に付けている。 背浮き、エレメンタリーバックストロークができる。 水難事故の現状を理解している。 溺れた人の救助法を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察 学習ノート 	○			○
9月3日金	<ul style="list-style-type: none"> 泳法の基本を習得する クロール 平泳ぎ（背泳ぎ）の技能 記録の計測 時間や距離に挑戦する 新しい泳法に挑戦する 競泳一人やチームでの競争 	<ul style="list-style-type: none"> クロール、平泳ぎの記録を向上させるよう力を出している 水泳の楽しさや喜びを味わおうとする。 学習カードに体の調子や授業の様子を記入している。 体の調子や練習場などの安全を確かめるなど、健康・安全に留意して練習をしている。 課題解決に必要な練習を適切に工夫し、練習している。 課題の達成状況をとらえ、練習仕方を見直したり新たな課題を選んだりしている。 速く泳いだり、続けて泳ぐことができる。 背浮きを続けて長く行うことができる等、基本的な動作ができる。 自己の設定した目標を達成または記録を更新している。 学習した知識を基に自己の課題に適した練習を選択している。 競泳のルールや用語を理解している。 事故防止の心得や水難事故の知識を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察 実技テスト 観察 学習ノート 	○			○

◆ 観点【運動の技能】についての実技テスト及び実技観察の具体的評価項目及び評価規準と評価基準

ー 25mクロール確認テストー [内容：ストローク(プル、リカバリー)・コンビネーション・スタート]

クロール確認テストチェック表(基本泳法 2ストローク1呼吸6キック) 6月25日・9月14日実施

名前	評価規準	入水キャッチ	プルプッシュ	リカバリー	コンビネーション	スタート(ターン)	25mクロールタイム
		親指から入水 前方へ伸ばす 手の平は下側 手首の曲げ	S字の軌道 (体の中心) 肘を曲げる 最後の一かき	小指から水面 に抜く エルボアップ 肘先行から手 先の先行へ	プレス ストローク、 キック、プレ スのリズム 顔の方向	けのびの姿勢 水中姿勢動作	参考タイム 6月25日 との比較
1	〇〇						
2	〇〇						
:							

技能の観点項目については、各々5段階で評価し、おおむね満足できるとみられる技能を習得している場合は「3」の評価とする。

【球技】

1 単元名 グランドソフトボール(計 14時間 9月24日～11月2日)

- 2 学習目標
- ・集団的スキルや個人的スキルの程度に応じてルールの扱い等を工夫し、作戦を立ててゲームを楽しむ。
 - ・個人的スキルについては基本的スキルを定着させ、ゲームや集団的スキルを組み立てることができるようにする。
 - ・集団的スキルについてはチームの一人一人の能力に応じて工夫し、ゲームに生かすことができるようにする。
- 3 学習内容
- ・味方同士が協力し、作戦を立て、相手チームに対応したゲーム
 - ・集団的スキル—バックアップ、ヒットエンドラン、バント、全盲生徒の守備及び攻撃時のフォーメーション
 - ・個人的スキル—送球、捕球、打撃、走塁の基本的スキル

観点	評価規準	評価基準 B (おおむね満足)
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・チームにおける自分の役割を自覚して責任を果たし、協力して準備や後片付けを行おうとしたり、課題解決の仕方やスキルの高め方について教え合ったりして互いに協力しながら練習やゲームをしようとする。 ・ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗や結果を受け入れようとする。 ・技能の段階に応じて、作戦を立てて勝敗を競い合う球技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ●練習やゲームの場所の安全を確かめ、安全な練習方法で行おうとし、危険なプレーをしないなど、健康・安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームの課題解決を目指して協力したり、教え合ったりして意欲をもって練習に取り組んでいる。〔観察〕 ○自分の課題及びチームの課題を見つけ進んで練習に取り組んでいる。〔観察・学習ノート〕 ○ゲームの作戦や練習について、意見交換や協力することによってチームを高めようとしている。〔観察・学習ノート〕 ○仲間と協力して準備や後片付けなどを行っている。〔観察〕 ○自分の能力に応じた守備位置や打順でゲームを行い、グランドソフトボールのもつ楽しさや喜びを味わおうとしている。〔観察〕 ○試合の結果を受け入れ、公正な態度をとっている。〔観察〕 ○学習カードにその日の様子を記入している。〔学習ノート〕 ●打撃の後のバットの取扱いに気をつけたり、危険なプレーをしない、事前の健康チェックなど健康・安全に留意している。〔観察〕 ●練習場を把握して安全に練習やゲームを行っている。〔観察〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に適した課題を設定している。 ・チームに適した課題を設定している。 ・チームや自分の課題を解決するための適切 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本練習から自分の課題を適切に見つけ出すことができる。〔観察・学習ノート〕 ○自分やチームの能力に応じて計画的に練習をしたり、練習の仕方を

思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> な練習や方法などを選んだり、見つけたりしている。 技能の段階に応じて相手との攻防に合った作戦を立てている。 チームや自分の課題の達成状況をとらえ、練習やゲームの仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 ●グラウンドソフトボールの集団的・個人的技能について正しい動作、技能を理解し言葉で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫している。〔学習ノート〕 ○各自の能力に応じた守備位置や打順を考え、工夫して作戦をたてゲームができる。〔観察・学習ノート〕 ○試合の結果を適切に分析し、チームの能力に応じた作戦を立てようとする。また、作戦をゲームに生かしている。〔観察・学習ノート〕 ○試合の結果を受け入れ、自分や仲間の努力の成果を振り返ることができる。〔観察〕 ●正しい運動動作や技能につながるよう助言を聞きながら個人の動作やチームの作戦を工夫している。〔観察〕
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題や自分の能力に応じて、グラウンドソフトボールの特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。 技能の段階に応じて相手との攻防にあった作戦でゲームや練習をすることができる。 自分やチームの能力に適した課題の練習やゲームを通してバックアップなどの集団的・個人的技能や投・送球、打撃などの個人的技能を高めることができる。 ●グラウンドソフトボールの集団的・個人的技能など基本技能について正しく運動動作を理解している（運動動作と運動イメージを一致させて競技できる）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の役割を理解し、練習やゲームで生かしている。〔観察・学習ノート〕 ○送球・捕球・打撃・走塁の基本的な技能を身に付けている。〔観察・学習ノート・実技テスト〕 ○（防御）打球に合わせた捕球ができる。走者や状況を考えて送球等ができる。投手は、コントロールが安定している。〔観察〕 ○（攻撃）投球に合わせバットをコントロールし、出塁できるように打つことができる。状況に応じた走塁ができる。〔観察〕 ○（攻撃）得点差、走者、アウトカウント、守備位置等に応じた打撃や走塁ができる。〔観察〕 ●（防御）声などにより互いに連携をとり、協力し合ってプレーすることができる。グループ練習で取り組んだ内容がゲームに生かされている。〔観察・学習ノート〕
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> グラウンドソフトボールの特性に応じた技能の構造や技能を高めるための効果的な練習の仕方、グラウンドソフトボールの用語、ルール、ゲームの運営の仕方を理解しそれらの知識を身に付けている。 ●集団的・個人的技能など基本技能、動作について言葉と動作を一致させて理解している。 グラウンドソフトボールの特性に応じた集団的技術や個人的技術の構造、技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○攻防を交替しながら得点を競う野球型のゲームの特性や学習の進め方を理解している。〔観察・学習ノート・質問紙〕 ●連携プレーやヒットエンドランなどの集団的・個人的技能や投・送球や打撃などの個人的技能を理解している。〔観察〕 ○合理的な練習の仕方、練習計画の立て方を理解している。〔観察・学習ノート〕 ○打順や守備位置の役割を知っている。〔観察・学習ノート〕 ○試合の運営やルール、審判の方法を理解している。〔観察・学習ノート・質問紙〕 ●学習した知識をもとに課題に適した練習を選択している。〔観察・学習ノート〕

※観点別評価についてはABCの3段階で評価をする。 A：満足 B：おおむね満足 C：努力を要する
 ※●は特に盲学校に対応した内容

◆ 単元の評価計画（グラウンドソフトボール）

	学習項目・主な内容	評価規準	評価の方法	知識	判断	技能	知識
9月24日金	種目、ルール、用具の確認 守備ポジション理解 授業の進め方確認 基本動作の理解 ・正しい投球、捕球	<ul style="list-style-type: none"> ・野球型スポーツの特性、用具や種目に合わせた練習の仕方や知識が理解できている。 ・互いに協力し、励まし合い進んで練習を行うとする。 ●用具や練習場などを把握して安全を確認できる。 ・種目の特性や学習の進め方、新しい種目に対する意見や自分の能力に適した目標など記録している。 	観察 学習ノート 観察 学習ノート 学習ノート				○
10月15日金	基本動作の理解 ・フォームづくり（正しい投球、捕球、打撃） ・基本練習	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を見つけずすんで練習に取り組んでいる。 ・互いに協力し、励まし合い進んで練習を行おうとする。 ●体の調子や用具、練習場などの安全を確かめるなど、健康・安全に留意して練習をしようとする。 ・基本練習から自分の課題を適切に見つけている。 	観察 学習ノート 観察 学習ノート		○		
10月19日火	集団技能の理解 ・基本練習 ・攻撃 バント ・守備 バックアップ ・ベースランニング（後半：陸上）	<ul style="list-style-type: none"> ・全力を出して練習に取り組み仲間と協力している。 ●体の調子や用具、練習場などの安全を確かめるなど、健康・安全に留意して練習をしようとする。 ・課題解決のために効果的な練習の仕方を選んだり、技能向上のために練習の仕方を工夫している。 ・バント、バックアップの方法を理解して行っている。 	観察 学習ノート 観察 学習ノート 観察			○	

10月26日 火	基本練習 試合の進め方、ルールの理解 (後半：陸上・持久走)	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや連携プレーなど集団、個人的技能を理解している ・自分やチームの能力に適した課題を見つけ練習をしたり、守備位置や打順を工夫している。 ・投球、捕球、打撃の基本的な技能を身に付けている。 ●体の調子や用具、練習場などの安全を確かめるなど、健康 ・安全に留意して練習をしようとする。 	観察学習ノート 観察学習ノート 観察 観察学習ノート					○
10月29日 金	簡易試合 集団技能 ルールの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの作戦や練習について意見交換や協力している。 ●体の調子や用具、練習場などの安全を確かめるなど、健康 ・安全に留意して練習をしようとする。 ・ルールや連携プレーなど集団、個人的技能を理解している ・チームの作戦や新たな課題を見つけたりしている。 	観察学習ノート 観察					○
11月9日 火	試合 実技テスト ルールの確認 (前半：陸上・持久走)	<ul style="list-style-type: none"> ・全力で試合を行いGFの楽しさや喜びを味わおうとする。 ●体の調子や用具、練習場などの安全を確かめるなど、健康 ・安全に留意して練習をしようとする。 ・試合の結果を適切に分析し作戦を考えたり、自分や仲間の努力の成果を振り返ることができる。 ・投球、捕球、打撃の基本的技能を身に付けている。 	観察学習ノート 観察 学習ノート 技能テスト					○
11月16日 火	・試合、実技テスト ・ルールの確認 知識の整理 ・実技テスト（予備） ・知識確認テスト ・学習のまとめ感想 (前半：陸上・持久走)	<ul style="list-style-type: none"> ・試合の結果を受け入れ、公正な態度をとっている。 ●体の調子や用具、練習場などの安全を確かめるなど、健康 ・安全に留意して練習をしようとする。 ・課題解決、記録向上のため練習の仕方や競技の仕方を工夫している。また、自己の目標記録を達成、更新している。 ・投球、捕球、打撃の基本的技能を身に付けている。 ・グラウンドソフトボールのルール、用語を理解している。 	観察学習ノート 観察、記録 学習ノート 技能テスト 確認テスト					○
11月30日 火	試合 予備日 (陸上・持久走)	<ul style="list-style-type: none"> ・種目のルール、競技や審判の方法を知っている。 ・試合の結果を受け入れ、公正な態度をとっている。 ・種目の特性に応じた技能を身に付けている。 ●体の調子や用具、練習場などの安全を確かめるなど、健康 ・安全に留意して練習や競技をしようとする。 	観察 観察 観察 観察学習ノート					○

◆ 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【知識・理解】の評価材料 ⇒ 学習ノートの活用
単位時間における評価活動として学習ノートを活用し、自己評価・学習活動グループ内での相互評価についても行う。

* 学習ノートの具体的な内容項目の例

毎単位時間での記入内容	<ul style="list-style-type: none"> ・健康チェック（食事、睡眠時間、授業前の体調、授業後の体調） ・先生に教わったこと、気づいたこと工夫したことなど書いてみよう ・全力で取り組みましたか？（5段階の自己評価）
陸上競技、水泳での主な記入内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目の目標記録を書いてみよう ・クラウチングスタート（足の位置、スタート動作、歩幅の目安）、走り幅跳び（助走、跳び方）、投てき（フォロースルー、リリースポイント、助走）について自分の気づいてこと工夫したこと教わったこと等書いてみよう ・得意種目、不得意種目を考えてみよう（なぜ得意、不得意なのか？） ・目標記録を更新するためにどんな工夫が必要でしょうか？ ・陸上競技の授業を通して感じたこと、考えたことなど感想を書いてみよう ・クロールのストロークについて注意事項をまとめてみよう ・競泳のルールについてまとめてみよう ・水難事故についての意見、感想を書いてみよう ・今日はどのくらい泳ぎましたか？ ・長い距離を泳いで感じたこと、気づいたことを書いてみよう ・水泳の授業でどんなことが得られましたか？
グラウンドソフトボールでの主な記入内容	<ul style="list-style-type: none"> ・基本練習をやってみての自分の課題や目標を考えましょう ・今日の練習で工夫したこと、頑張ったことを具体的に書いてみよう ・チームでの守備練習をやってみて気がついたことを書いてみよう ・打撃練習をして気づいたこと、工夫をしたことなど書いてみよう ・チームで練習や試合をやってみて気がついたこと、工夫したことなど書いてみよう ・連携プレーやチームの作戦などについてよかったことや課題など書いてみよう ・今日の試合で楽しかったこと、気づいたことなど書いてみよう

2 事例2—ろう学校高等部3年生公民「現代社会」

ろう学校における公民「現代社会」の一つの単元（日本経済の特質と福祉の実現<労働者の生活と労働問題>）を取り上げ、一単位時間の授業展開において評価する項目を四つの観点を基に提示する。一単位時間の授業で評価する観点は限られるが、今回の授業では、なるべく多くの観点で評価するよう試みた。

(1) 「現代社会」において養いたい力と評価の観点

ろう学校における公民「現代社会」の学習で重要なことは、身の回りの社会現象に対し、情報のアンテナを高くして関心・意欲をもち、その現象の背景にあるものは何であるかを理解し、考え判断する力を身に付けていくことである。教科書にある重要語句や概念の理解を十分に行い、知識を積み上げ、判断力を高めていくことが大切である。「現代社会」の授業は、生徒が語句を知識として暗記するだけではなく、生徒が進んで社会的事象に興味・関心をもち、積極的に学習課題を設定し、追求していくようにすることが大切である。

(2) 「現代社会」の評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対す関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに社会事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身につけ現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。 ・現代社会の課題について関心を高めている。 ・意欲的に課題を追求し客観的に考察しようとする態度を身に付けている。 ・現代社会に生きる一員として、平和で民主的な社会生活の実現に向けて、主体的に参加し、協力しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。 ・現代社会の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を設定している。 ・設定した課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多面的多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。 ・現代社会の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を、様々なマスメディアを通して収集し、役立つ情報を主体的に選択し活用している。 ・学習の中で追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。 ・現代社会の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などについて理解しその知識を身に付けている。

(3) 評価規準を作成する際の配慮

評価規準は、その時間の学習の目標とも合致するものであり、評価規準作成においては、指導の観点を明確にするため、具体的な項目を挙げる必要がある。また、指導の際には、評価のみに重点がおかれ、評価のための授業とならないように留意するこ

とも大切である。ろう学校の1グループの人数は、比較的少人数なので、各個人の状況を細かく観察しながら評価することが可能である。

各单元ごとに、「現代社会」の学習において、確実に理解しておかなければならない項目を挙げ、生徒一人一人の学習状況等を十分理解するとともに、学習内容にあわせて評価規準を作成する。さらに、生徒に応じて必要なこと、伸ばしたい力等を明確にすることが大切である。

例えば「選挙」に関するニュース記事を基に、＜関心・意欲・態度＞＜思考・判断＞＜資料活用の技能・表現＞＜知識・理解＞の4観点から授業評価を行う場合、以下の項目が考えられる。ニュース記事は、「選挙」について理解する一つの資料となる。

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身近な生徒会選挙に参加し、投票で選ばれることを知っている。 「選挙」が行われたこと（いつ、だれを選ぶ、争点）を知っている。 「選挙」の実施にかかる有権者の行動（家族や身の回りの人）について知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 投票が、民主政治において大切な行為であることを認識し、国民の権利義務であることを肯定・否定の両面から多面的に考えることができる。 「選挙」結果からどのように思い、考え、行動したら良いか考えることができる。 「投票率が高い低い」「一票の格差」等について、今回どうであったか、影響を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「選挙」のニュースの事実について、背景や関連事項について教科書・資料集及びインターネット等を利用して調査し、まとめることができる。 過去の「選挙」結果のグラフや表の読みとりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「選挙」とは何か、知っている項目について発表する。既習内容の整理をし、新たな語句や概念が理解できる。 政治に参加する極めて重要な機会であることがわかる。 国政選挙の制度の違いを理解することができる。

(4) 指導と評価の事例（1単位時間の授業の例）

少人数で授業を行っているため、生徒の一人一人の障害の状態を十分把握した上で、評価規準の各項目において評価することが可能である。「十分満足できる」と評価した生徒に対しては、さらに知識を広げるように個別の教材を用意する。「努力を要する」と評価した生徒に対しては、基本的な事項の定着を目指し、さらに指導方法を工夫していくように配慮する。

◇対象 高等部普通科3年生2グループ「現代社会」

◇单元名 日本経済の特質と福祉の実現 ＜労働者の生活と労働問題＞

◇单元の目標

- ・労働の意義を考え、労働者としての権利とは何であるかを理解する。
- ・現代社会における日本の労働慣行や環境の変化を資料を通じて理解する。
- ・今日、日本が抱えている労働問題について課題を設定し、解決策について自らの考えをまとめる。

◇生徒の実態

本グループは習熟度別学習グループの中位グループである。コミュニケーションは聴

覚を活用しながら口話を中心に、手話、指文字等を併用している。公民としての用語、概念の理解は、社会的経験の不足や語彙力の乏しさから抽象的思考が困難な面はあるが、積極的に自らの意見を出し、授業に参加している。グループ内でお互いの意見を交換し、議論するようになった。生徒の興味・関心に応じて、今まで知らないことが理解できたという満足感がもてる授業展開を心がける。

◇単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 戦後の日本経済の歩みと現状を理解しながら、労働問題の現状と課題をとらえている。 労働条件を、家族や身近な働く人及び将来の自分の問題としてとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な労働問題に対し、自らの考えをもち、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 失業者の増加や週休二日制、過労死、女性や高齢者・障害者の雇用問題に関する事例を収集し整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の促進や労働条件向上の必要性を憲法の定めに基づいて理解することができる。 労働基準法の概要を整理することができる。

◇本時の目標

- 日本の労働時間及び雇用情勢について資料を読み取りながら考察する。
- 過労死についての現状を理解し、自身の労働観をもつ。
- 失業の現状を理解し、ワークシェアリングについて考察する。

◇本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 働くことについて、自分のこととして考えることができる。 日本の労働環境の現状を積極的に理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状の労働環境の状況について自分としてどのような対応・態度が必要か説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 労働時間、失業率についての数字、グラフの変化を読みとり、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 労働基準法の概要を理解する。 「過労死」の現状・「ワークシェアリング」の原理がわかる。

◇本時の指導

学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価の観点
<導入> 労働の意義 労働の権利 <展開> 日本の労働環境の現状	どうして人は働くのか、労働の意義、権利等の確認をする。 1 働いてみたい企業について考える。 ・労働時間・賃金について、具体的に考察する。 教師：労働条件の異なる3社を提示する。 生徒：意見を述べ合って、互いに価値観の理解を図る。 2 労働基準法の労働時間について確認し、国際比較を行う。	前時の復習をさせ、発言を促す。 関：意欲的に発言できる。 思：自分のこととして働くことをイメージすることができる。 例示（資料） 生徒の進路状況を踏まえる。 労働基準法の条文を確認させる。（OHP資料提示） 知：労働基準法の規定を理解できる。 統計資料（年間総労働時間の国際比較）を用いてグラフの変化を読み取らせる。（OHP資料提示）

過労死	<p>3 長時間労働の実態を理解し「過労死」について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事から事例を理解する。 教師：新聞記事を提示する。 生徒：感想を発表する。 ・労災補償状況について理解する。 教師：ポイントを板書する。 生徒：板書を写す。 	<p>*視覚的なカードを使用する。</p> <p>資：グラフの読み取りが適切にできる。 「KAROSHI」が世界的に知られている現象であることを理解させる。</p> <p>知：過労死の意味の理解ができる。 思：過労死の背景にあるものを理解し、自分の考えを整理し発表することができる。 概要をとらえ、身近な問題であることを感じさせる。 (OHP資料提示) 具体的な数字(過労死等の労災補償状況)の変化について考察させる。 (OHP資料提示) 思：数字の変化から過労死の現状を理解することができる。</p>
失業	<p>4 日本の失業率のグラフから厳しい雇用情勢について考察する。 教師：グラフを提示する。 生徒：OHPに不足部分を書き足す。 互いの意見を述べ合う。</p> <p>5 働きたい人が働ける環境を作るためにはどのようにしたらよいか考える。 生徒：意見を述べ合って、互いに価値観の理解を図る。</p>	<p>資料(日本の完全失業率)を提示し赤ペンでなぞらせる。(最新のデータも紹介する)</p> <p>資：グラフの読み取りが適切にできる。 思：完全失業率の増加や悪化する雇用情勢について多面的・多角的に考察することができる。 思：自分の労働観を持つことができる。</p>
ワークシェアリング	<p>6 ワークシェアリングの原理を理解する。 教師：ポイントを板書する。 生徒：板書を写す。</p>	<p>知：ワークシェアリングの意味の理解ができる。</p>
<まとめ>	<p>本時の学習内容を確認し、次の時間(女性労働者の現状)について予告をする。 生徒：ワークシートを記入する。 教師：ワークシートの確認をする。</p>	<p>ワークシートのチェックを行う。</p>

●授業の際の配慮事項(聴覚障害に対する具体的な配慮)

- ・視覚教材を有効に活用し、イメージ化を図る。
- ・繰り返し確認することで、概念の定着を図る。
- ・生徒に応じたコミュニケーション手段を用いる。
- ・ワークシート等を準備し、細かく確認する。
- ・わからない語句、言葉についてはすぐに自ら調べる習慣を身に付ける。
- ・生徒同士が活発に話し合いができるよう、細かくテーマを区切って質問を行う。
- ・生徒同士が互いの意見を理解し、確認し合うよう促す。

◇ワークシートと配付資料

【労働環境の現状と課題】

1. 労働の意義（どうして働くの？）

・

・

2. 労働時間
 労働 _____ 法・・・一日（ ）時間 一週（ ）時間 < > 条
 長時間労働（ ）の動き

・

「KAROSHI」（ ）
 働き過ぎが原因となって脳疾患や心臓疾患で突然死亡すること

3. 厳しい雇用情勢
 完全 _____ 率・・・働く意志をもっている者のうち、どれくらい失業して
 いる者がいるかを表す

↓

一人あたりの労働時間を削減してその分労働者数を減少させずに確保する
 <例>

	A	B	C	D	E	F	
賃金	20万	20万	20万	20万	20万	20万	人件費計
労働時間	8時間	8時間	8時間	8時間	8時間	8時間	労働時間計

↓不況 会社の利益が減る

人件費の削減（半分）（ ）万
 ABCDEFはどうなる？

	A	B	C	D	E	F	
賃金							人件費計
労働時間							労働時間計

(5) 評価の際の留意点

定期考査は、生徒の学習状況を把握する一つの評価方法である。基礎的な知識や思考力・判断力をはかる問題などパターンや難易度を変え、グループの評価規準に合わせて作成していく。それは、生徒の理解力を見るだけでなく、教師自身が授業を振り返る機会となる。また、評価は生徒の学習を促すとともに、次の指導の改善を示唆する役割もある。

地理歴史や公民では、<知識・理解>や「知識の記憶量の測定」という観点を重視しがちである。評定を行う際、ペーパーテスト等から「知っているか・知らないか」の一部の観点到偏った評定が行われることのないよう問題を工夫し、各単元ごとに四つの観点による総合的な評価を十分に行うことが大切である。日常の評価の大切さを再確認し、ペーパーテストのみで評価する考え方を改めなければならない。

以下の評価方法を活用して、四つの観点のバランスを取りながら各単元の評価をすることが必要である。

	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
定期考査		○（論述）	○（表グラフの読みとり）	○
小テスト（確認テスト）	○		○（課題解決学習）	○
レポート課題	○	○		

ノート、プリント点検	○		○	○
授業での発言	○	○		
発表の内容態度等		○		

(6) 評価規準を作成しての評価観の変化

- ・これまで主観的に評価していたが、評価が客観的になり、評価することに教師が自信をもつことができる。
- ・4観点による評価により、一つの観点の評価が低い場合でも、他の観点の評価が高ければ高い評価をすることができる。〈知識・理解〉においても、ものごとを知っているだけでなく、資料を活用したり、自ら積極的に意見を述べたことなども考慮して評価することが大切である。
- ・目標が明確になり、次の指導の課題が具体的に見えてくる。
- ・評価の観点をプラスの側から見て、生徒の良い面を引き出すことができる。
- ・生徒が何をどのように努力すれば良いのか具体的に示すことで、自ら学ぶ意欲や、関心等を高めることができる。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 観点別学習状況の評価に基づいて、目標に準拠した評価規準を作成したことにより、客観的で達成度が明確な評価を行うことができた。具体的な評価規準に基づいた評価は、教師自身の指導を見直し、指導の改善に役立てることができた。
- (2) 習熟度別学習グループごとの評価において、生徒の実態を適切に捉え、指導に活かすためには、グループごとの評価規準が必要であることが明らかになった。
- (3) 偏った観点ではなく、様々な観点から評価をすることにより、生徒に対する評価観が変わり、生徒を多面的に評価するための方法を工夫するようになった。そのことが、教材・教具の工夫・改善につながった。
- (4) 障害の特性に応じた評価規準を検討することにより、指導内容・方法の工夫や必要な配慮事項が明らかになった。

2 今後の課題

- (1) 新しい評価観を確立するには、教師の評価に対する意識改革を進める必要がある。
- (2) 指導と評価の一体化を図るためには、常に授業改善を図り、各教科における評価方法・指導方法等についてさらに研究開発を進める必要がある。
- (3) 生徒や保護者に対して、各学校で評価規準を作成し、評価の在り方について明確に示す必要がある。
- (4) 障害の特性に配慮した観点別学習状況の評価を行うためには、観点の重み付けの在り方についてもさらに検討する必要がある。